

令和元年 5 月 29 日
資 料 提 供

問い合わせ先
環境生活総務課 環境計画班
嶋田、石井（内線 2673）
（直通）073-441-2674

和歌山県環境影響評価審査会を開催します

標記について下記のとおり開催しますのでお知らせします。

■環境影響評価制度

開発事業の内容を決めるに当たって、それが環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ事業者自らが調査、予測、評価を行い、その結果を公表して一般の方々、地方公共団体などから意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からよりよい事業計画を作り上げていくという制度（環境影響評価法）

■和歌山県環境影響評価審査会

環境影響評価において、事業者が各段階で作成した図書について、知事が意見を述べる際に専門的な見地から学識者の意見を聴くため設置（根拠：和歌山県環境影響評価条例第 36 条）

記

- 1 日 時：令和元年 6 月 5 日（水）13:30～
- 2 場 所：和歌山県民文化会館 5 階 大会議室
- 3 内 容：（仮称）白馬ウィンドファーム更新事業に係る計画段階環境配慮書

■報道取材等について

- ・審査会は、公開で行いますが、撮影は冒頭（議事に入る）までとします。

【事業の概要】

事業の名称	（仮称）白馬ウィンドファーム更新事業
事業者	白馬ウィンドファーム株式会社 代表取締役社長 山中 廣人
主たる事務所の所在地	日高川町大字平川字小山 1136 番地 2
事業の内容	風力発電（陸上）
事業実施想定区域の位置	日高川町、広川町
事業の規模等（予定）	○発電所の出力（最大） 30,000kW（計画段階における想定 of 総出力） ○本事業は、既設 20 基（単機出力 1,500kW）を廃止して、新たに 3,000～4,000kW 級の風力発電機を 8～11 基設置するもの

(参考) 環境影響評価(環境アセスメント) 制度について

環境影響評価制度は、法令で定める大規模事業を行うにあたり、事業が及ぼす環境影響を事業者自らが調査、予測、評価し、その結果を公表して住民、地方公共団体などから意見を聴き、それらを反映して環境影響の回避・低減を図る制度です。

環境影響評価法の手続きは、大きく分けて配慮書、方法書、準備書、評価書、報告書の5段階があり、各図書の内容は次のとおりです。

図書	内容
配慮書【今回】	事業の位置・規模等の検討段階において、環境保全のために適正な配慮をしなければならない事項について検討を行い、その結果をまとめた図書
方法書	どのような項目について、どのような方法で環境アセスメントを実施していくのかという計画を示したもの
事業者による調査・予測・評価(以下、「調査等」という。)の実施	
準備書	調査等を実施した結果を示し、環境の保全に関する事業者自らの考え方を取りまとめたもの
評価書	事業者が準備書に対する環境保全の見地からの意見を有する者、都道府県知事等からの意見の内容について検討し、必要に応じて準備書の内容を修正したもの
個別法の許認可等での審査・事業の実施	
報告書	工事中に実施した事後調査やそれにより判明した環境状況に応じて講ずる環境保全対策、重要な環境に対して行う効果の不確実な環境保全対策の状況について、工事終了後にまとめたもの

和歌山県環境影響評価審査会 委員名簿

氏名	役職名等	専門分野
入野 俊夫	和歌山大学システム工学部教授	騒音・振動
岩井 珠恵	ビジュアルデザイナー	景観
内田 紘臣	(株)串本海中公園センター名誉館長	海生生物
梅本 信也	京都大学フィールド科学教育研究センター里域生態系部門紀伊大島実験所所長・准教授	植物
江種 伸之	和歌山大学システム工学部教授	水質・底質・土壌・地下水
此松 昌彦	和歌山大学教育学部教授	地形・地質
竹中 規訓	大阪府立大学大学院 人間社会システム科学研究科教授	環境化学(大気化学)
谷 奈々	(一財)和歌山社会経済研究所研究委員	文化振興・歴史文化産業遺産の保存と活用
津村真由美	(公財)日本野鳥の会和歌山県支部幹事	鳥類
(会長) 濱田 學昭	元和歌山大学システム工学部教授	総括・都市計画
細田 徹治	和歌山県自然環境研究会会長	ほ乳類
的場 績	元和歌山県立自然博物館副館長	昆虫
(副会長) 吉田 登	和歌山大学システム工学部教授	温室効果ガス・廃棄物